

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	認知症の初期集中支援サービスの構築に向けた桜新町アーバンクリニックの取り組み
日時	平成 25 年 3 月 31 日 11 : 30~11 : 40
会場	第 8 会議室
座長	坂の上ファミリークリニック 小野宏志先生
演者	医療法人社団プラタナス桜新町アーバンクリニック・片山 智栄先生
企画趣旨	<p>認知症になっても在宅での生活の継続につながるサービス体制の整備を推進するため、厚生労働省は認知性施策検討プロジェクトチームがまとめた「今後の施策の方向性」に基づき 7 つの施策を打ち出した。ここでは新たに「認知症初期集中支援チーム」を設置し、アセスメント、家族支援などの初期支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行う研究事業「認知症の初期集中支援サービス構築に向けた基盤研究事業」を展開する。</p> <p>研究事業発足の背景として、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 早期対応の遅れ ② 日常的なケアの場でのアセスメントが不十分 ③ 行動・心理症状等により「危機」が生じてからの「事後的な」対応 <p>を指摘しており、早期事前的な対応を基本に早期支援機能としての認知症初期集中支援チームの役割が期待されている。</p> <p>我々はこの研究事業のメンバーとして初期集中支援のサービスやケアの在り方、アセスメントツールや心理教育ツールの開発・検討に着手している。チーム員の構成としては訪問看護師を中心に認知症専門医・在宅医・作業療法士等の認知症スペシャリストで結成され、地域の地域包括支援員やケアマネジャー等との連携を基軸に展開している。初期の記憶が残っている段階で、療養における本人の意思や生活習慣、人生観、人間関係等を聴取しその人がその人らしく生活を継続できるようにケアの方法をひもとく情報を収集する。家庭訪問を行い生活場面で詳細な情報を収集し、本人や家族に対する初期のアセスメントを実施するとともに、本人や家族への認知症の症状や病気の進行状況に沿った対応等についての説明、今後の見通しが立てられるような情報提供、家族に対するアドバイス等（心理教育等）を行い、一定期間、集中的に本人と家族そして認知症の人をサポートする地域の介護サービス事業者に関わっていく。</p> <p>今回は当院で実施している認知症初期集中支援サービスの取り組みについて報告したい。</p>